

かわむきひがしいつ

川向東貝津遺跡

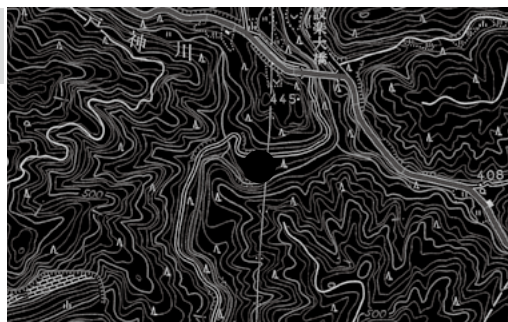
所在地 北設楽郡設楽町川向地内
(北緯35度6分26秒 東経137度33分54秒)

調査理由 設楽ダム建設

調査期間 平成28年5月～9月

調査面積 810㎡

担当者 樋上 昇・武部真木



調査地点 (1/2.5万「田口」)

調査の経過 発掘調査は、設楽ダムの建設工事に伴う事前調査として、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業としておこなった。

立地と環境 川向東貝津遺跡は豊川の支流、境川右岸の河岸段丘上に立地する。遺構検出面での標高は374～376mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。近世以降には、石垣で区切られた5段の平坦面からなる棚田に改変されており、さらに1950年代には水田が放棄されて杉の植林がおこなわれている。

調査の概要 平成27年度の調査では、縄文時代中期の竪穴建物跡と集石土坑などを検出した。その際、下面遺構として後期旧石器時代と縄文時代草創期の石器集中区を検出したため、その範囲810㎡を本年度に改めて調査することとなった。

調査区北西端と南西端の2ヶ所に石器集中区があり、前者は後期旧石器時代から縄文時代後・晩期までの石器が混在する。いっぽう後者は縄文時代草創期と後期旧石器時代の石器群が層位的にほぼ混在することなく出土している。なかでも縄文時代草創期は、20点を超える尖頭器の出土が目される。

(樋上 昇)



調査区全景 (北西から)



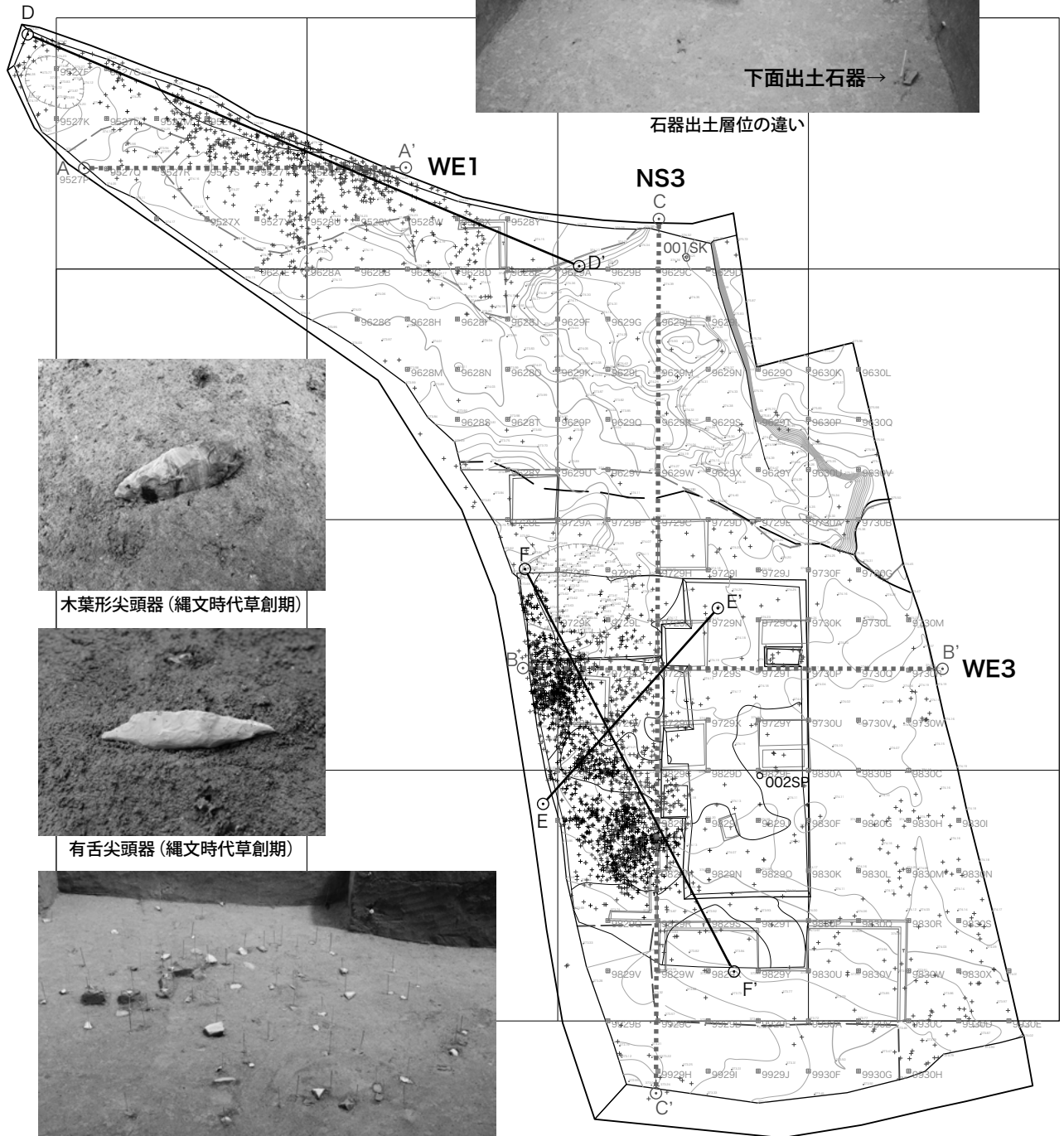
下面完掘状況(北より)



← 上面出土石器

下面出土石器 →

石器出土層位の違い



木葉形尖頭器(縄文時代草創期)

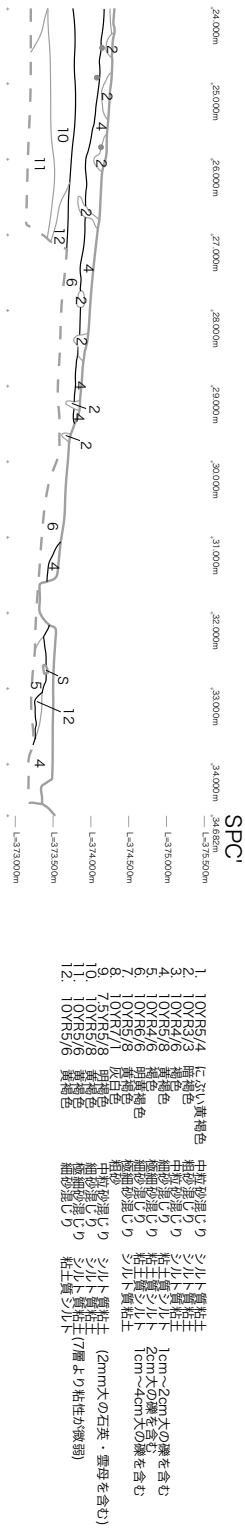
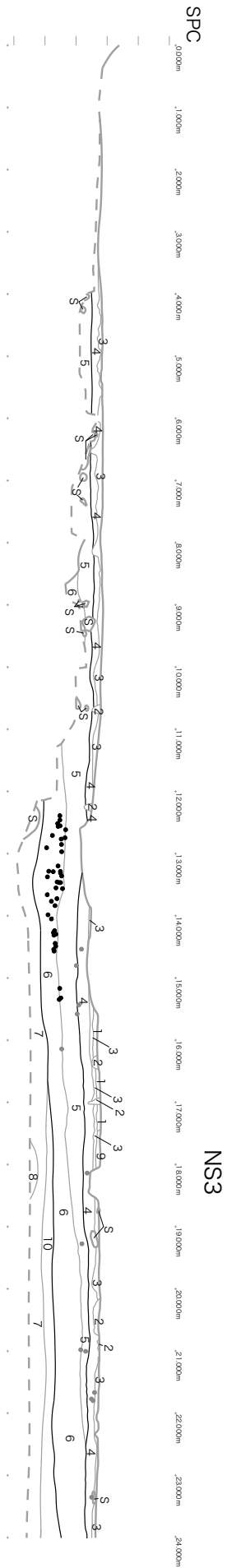
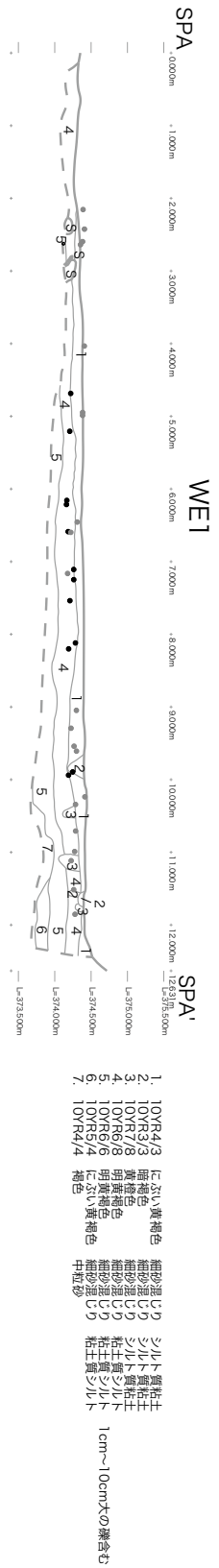


有舌尖頭器(縄文時代草創期)



下面石器群出土状況(後期旧石器時代)

遺構全体図 (S=1/250)
※ 薄いトーンは上面(縄文時代草創期)
濃いトーンは下面(後期旧石器時代の石器群)



土層断面図 (S=1/100)